

平成22年 4月28日現在

研究種目：若手研究（B）

研究期間：平成19年度～22年度

課題番号：19720011

研究課題名（和文）：東アジアの宗族におけるキリスト教思想の影響
－儒教規範に基づく家族制を中心に－研究課題名（英文）：On the influence of Christianity dogma in the East Asian Family. - Especially the Case
of the Family System based on Confucianism Rules. -

研究代表者：安部 力

（北九州工業高等専門学校 総合科学科 講師）

研究者番号：60435477

研究分野：人文学・哲学

科研費の分科・細目：中国哲学（2802）

キーワード：東アジア、宗族、儒教、キリスト教、イエズス会、天主教、規範意識

1. 研究計画の概要

本件は東アジア各地域における「家」（とそれに付随する諸概念）のあり方に焦点を当て、それらの比較を行うことを目的としており、16世紀を中心としながらも現代までを、研究の視野に入れている。そのため、時間的・空間的な規模の大きさを、如何に処理するかが課題となっている。その点に留意し、問題意識が散漫にならない様、極力個別の事例を取り上げ、本件のテーマ（「家」）に即しながら研究を行う。更に、各年度において対象とする地域（国）を限定し、それぞれの地域における現代の実情とその地域で形成されている「家（宗族）」についての規範意識を取り上げ、それらが、どのような「歴史的背景」を持っているのかを、史料に依拠しつつ明らかにすることを予定していた。その後の段階として、各地の個別調査、研究を通して得られた事例を体系化し、比較総合を行った上で、東アジア各地域の歴史的・現代的意識の特色（差異点）と共通（共有）点を明らかにすることを目的とした。この目的に添って、各年度に於いて台湾、中国、韓国を訪れて現地調査を行い、その結果を集約、発表してきた。また、現地調査の際には、歴史的背景も念頭に置きながら、それらと現代との関連を探ることとした。

2. 研究の進捗状況

当初の予定とは現地訪問調査の順序に一部入れ替わりがあったが、台湾、中国、韓国をそれぞれ訪れ、現在の各国におけるキリスト教徒が置かれている状況やキリスト教の浸透状況、思想的影響を当地の人々への聞き

取りなども交えて探るという目的は達成できていると考える。台湾へは本テーマの推進段階では1回だけであるが、本テーマに関する先行調査も含めると2回、中国へは3回、韓国へは1回の現地調査を行うことができた。韓国での調査結果はまだ発表していないが、本年度中にまとめる予定である。また、本年度は全体のとりまとめを念頭に置いた作業を行う予定であるが、これまでの作業の中で再確認すべき課題が出来たため、台湾及び中国への訪問調査も行う予定である。これらの基礎的な調査と同時並行して、当初のテーマでもある「16世紀のイエズス会士の活動」についても研究を進め、全体像を明確にする一助とする予定である。現在の進捗状況としては、訪問調査については8割以上と言えるが、研究全体のまとめから考えると、当初計画の6割程度である。今後は本テーマ全体のまとまりをより志向した作業を行っていく予定である。以上が現在の進捗状況である。

3. 現在までの達成度

研究作業の達成度については、上記の進捗状況で示した通りであるが、当初の研究課題に対する達成度については、研究全体のとりまとめについて、上述のように本テーマの推進段階で様々な解決すべき問題が出来たために、6割程度という認識である。以上の状況を鑑みて、現在は「現代の東アジア各国におけるキリスト教及び信者の状況」に力点を置いて研究をまとめている。それらを踏まえた上で「歴史的背景」との関連を考えると、この順序を取ることとしたことから、当初の

設定テーマよりは幾分「現代」に比重を置いた比較検討になっている。その過程で、当初計画した「東アジアにおける「家」のありかた及び「家族規範」に対するキリスト教思想の影響」とそれらにまつわる地域差を明らかにできると考えている。その「思想的影響」の淵源を歴史状況に探りながら、当初設定したテーマとの整合性を図っていく予定である。

4. 今後の研究の推進方策

上述のように、訪問調査については8割程度の進捗状況であるため、全体のまとまりを見ながら、とりまとめに必要な調査を再度行う予定である。特に、台湾においては全体のとりまとめに好適な調査環境があることから、歴史状況と現在の状況とを考えるために必要な調査を行う予定である。また、中国におけるキリスト教を取り巻く環境変化は激しく、地域差も大きい。更に、キリスト教に関するテーマはセンシティブだからであろうか、教会などでの信者への直接的な聞き取り調査が困難を伴うため、多くのキリスト教関連施設を有し、歴史的にもキリスト教との関係が深い南京を訪れ、本テーマ全体のとりまとめに資する調査を行う予定である。

以上は具体的な訪問調査予定であるが、同時に、「歴史的な」キリスト教思想の東アジアへの影響を考えるために、特に「イエズス会士」がもたらした、乃至は著述した所謂「西学」関連書籍を中心に検討作業を行うこととする。具体的には『天学初函』に見られるキリスト教的概念が当時の東アジアの国々（中国、朝鮮、日本）にどのように伝わり、どのような反響を惹起していったのか、そしてその反響（反応）にはどのような地域特性があったのか、等について明らかにする予定である。この成果を現地調査から得られた知見と照らし合わせ、最終的な報告としてまとめていくことを考えている。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計4件）

- ・安部力「台湾におけるカトリック・キリスト教信者の宗教意識に関する一考察（一）－祖先祭祀をめぐる問題－」（『北九州工業高等専門学校研究報告』第41号、113～122頁、2008年、査読有）
- ・安部力「台湾におけるカトリック・キリスト教信者の宗教意識に関する一考察（二）－「天后聖母」について－」（『北九州工業高等専門学校研究報告』第42号、135～144頁、2009年、査読有）

- ・安部力「現代中国におけるキリスト教の状況に関する一考察（一）－寧波、上海地区を例として－」（『北九州工業高等専門学校研究報告』第43号、2010年、129～138頁、査読有）
- ・安部力（他6名）「鄧崧渠『南詢録』訳注（一）」（『活水論文集』現代日本文化学科学編、第53巻、35～60頁、2010年、査読無）

〔学会発表〕（計2件）

- ・安部力「『天学初函』『坤輿万国全図』などに代表される明朝末期に伝来した洋学の系譜及びそれらの日・中・韓への影響」2008年度日本思想史学会、2008年10月19日、愛知教育大学）
- ・安部力「『天主実義』における『天』について（及び「西洋学術」の東アジアにおける影響）」（「東アジアにおける文明の衝突と「天」の観念の変容」に関する研究報告発表会、2009年8月8日、弘前大学）

〔図書〕（計1件）

- ・安部力（他12名による共著）『竹窓随筆－明末仏教の風景－』（荒木見悟監修、宋明哲学検討会訳注、中国書店、2007年6月）

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

本件と関連して、中国における現地調査については、特定領域研究（研究課題番号17083012「寧波における知の営みとその伝統－学脈・宗族・トポフィリア－」代表早坂俊廣信州大学人文学部准教授）での成果（デジタルコンテンツ）が発表される予定である。